

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300019
法人名	有限会社 オクムラハーネス
事業所名	グループホーム 泉の里
所在地	鹿児島県鹿屋市上高隈町1579-1番地 (電話) 0994-45-2388
自己評価作成日	平成29年11月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当「グループホーム泉の里」は鹿児島県鹿屋市の大隅半島の高隈山系に囲まれた自然豊かな場所に立地し、開設12年目となります。ホーム理念に「明るく豊かな心と心のふれあい」を掲げ、本人様はもとより、ご家族が安心して暮らせるように支援させていただいております。まず、入居前のご本人様の生活歴をしっかりとアセスメントし、これまでの生活がなるべく継続できるように、おひとりお一人の意向を導き出しています。また、医療面では、「かかりつけ医」「訪問看護ステーション」との連携が確立できており、24時間体制で緊急時の対応が可能となっています。食事面においては、地元で採れた新鮮な食材を活かした献立となっており、お米は当法人で育てたものをいただいております。最近では、入居期間が長い方も増え、車椅子での移動の方も多いですが気候のいい日には「ドライブ」「お花見」「みかん狩り」「外食」「買い物」等、個々の希望に添った支援にも取り組めるように努力しています。地域との交流では、町内主催で「風水害」や「地震災害」に備えた訓練の機会もあり、ホーム内でも年2回の避難訓練を実施しております。これからも、利用者様の尊厳を大切し、安心して暮らしていけるように全職員が一丸となりより良いケアサービスの構築を目指して参りたいと存じます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当グループホームの医療面は、かかりつけ医、訪問看護ステーションとの連携が確立し、緊急時にも24時間医療連携体制が整っている。
- ・市の認知症対策支援の取組みである認知症相談窓口「オレンジのまど」を当事業所にも開設している。
- ・入居者の一人ひとりの個性や意向を把握し、個々の力量に応じて保持に努めている。
- ・花見や買い物、外食、イチゴ・みかん・ぶどう狩り等、メリハリのある支援で、心身共にその人らしい生活を支援している。
- ・毎月発行のホーム便りは、入居者の暮らしが良く分かり、便りを通して家族との連携が取れている。
- ・年1回消防署立会いの避難訓練、1回は夜間想定訓練、その他自然災害訓練を行って、地域の避難場所にもなっている。
- ・管理者・職員は、入居者の尊厳を守り、理念を大切にして自己研鑽に励んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常日頃、理念を念頭に置きながら、日々のケアサービスに努めるようにしております。	理念はホールや廊下に掲示し、パンフレットにも掲載している。職員会議で振り返り、毎日のケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り、地元の方とのつながりが少しでも密になるように努めておりますが、もっと関りが深まることを望んでいます。	町内会に加入し、回覧板や広報誌・有線放送等で地域の情報を得ている。地域の行事や地区の避難訓練・地域の清掃・草取り等に参加して交流している。青年海外協力隊の慰問の受け入れや運営推進会議に地域の代表の参加を得て意見交換し地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	今回、鹿屋市の認知症の相談窓口の看板を掲げることができたので、実践できるように努力します。「鹿屋市認知症相談窓口オレンジの窓」		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進介護では、状況報告し話し合いや意見をいただく機会があります。</p>	<p>定期的に2ヶ月毎に開催している。事業所の活動状況や入居者の状況、地域の行事への参加等の報告をしている。参加者から要望や助言・質問等が多く寄せられ、地域の実情や市の情報・アドバイスをもらい、防災について等、意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議に出席していただいたり、入退居の状況報告をするなど常日頃より、連携を図っています。</p>	<p>市の担当者とは窓口に出かけて行ったり、電話で相談やアドバイスを受けている。福祉関係の担当者とも連携をとっている。運営推進会議では、事業所の現状を伝え意見や助言をいただいたり、月毎の便りも配布している。市主催の研修会には参加して協力関係を築いている</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束廃止について」の研修に参加し、学んだことを全職員で共有しています。無断離脱に備えて、玄関にはチャイムを設置するなどして、身体拘束をしないケアに努めています。</p>	<p>身体拘束廃止委員会がありマニュアルを基に「身体拘束廃止」について研修会に参加したり、月1回は職員会議で具体的な事例を出して、勉強会を行っている。言葉の拘束についても日常、職員間で気配りしている。玄関にはチャイムを設置しているが、その時の状況判断で対応している。外に出たい時は話をしたり同行して寄り添って支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待事例の報道情報等をみんなで語り合い、日々のケアの中で見過ごされていないか、何気ない言葉かけに虐待と思われる表現ではないか？常に緊張感をもち対応しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する研修を受ける機会がある。社協の金銭管理援助事業を4名が受けています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>改定時はその都度説明し、同意書を受領しています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回家族会を開催し、意見交換の機会を作っているが意見はあまり出ないため、もう少し雰囲気作りを行いたい。(気軽に意見ができるような・・・)</p>	<p>本人からは日常の関わりの中で思いを聞いている。家族からは面会時や年2回の家族会の時に意見が出やすいように雰囲気づくりに努めて意見や要望を聞いている。遠方の家族には電話や手紙で対応し、意見を反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>常々、意見が出やすいようにもう少し努めていきます。</p>	<p>職員とは日頃からコミュニケーションがとれており、意見が言いやすい環境を作っている。毎月1回の職員会議で意見や提案を聞いたり個人面談も行っている。職員は介護について「自己研鑽レポート」を月1回代表に提出してサービスの向上に努めており、意見は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>全体会議の中で報告があります。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内に沿って、的確な研修に参加できるように努めている。最近では、夜間帯に時間が設定されているなど、参加しやすくなり助かっています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅介護事業所主催の研修等において、ネットワーク作りや同業者との交流の機会があります。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、本人、家族、担当ケアマネとの連携を図り、アセスメントの充実させ、信頼関係が確立できるように支援しています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>なるべく多くの情報が集まるように努めているが、独居からの情報は少なく困ることもあります。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前の段階で、GH利用が的確かどうか、関係者で話し合う機会があります。担当ケアマネとの連絡を密に行う。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>残存機能を把握し、できることは本人に関わってもらうケアに努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の時など、家族との関係が途切れることがないように、かねての生活ぶりを伝えていきます。また、毎月の便りで報告しています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会時など、楽しい共有の時間が過ごせるように、安心できる場所や話題を提供するなどしています。</p>	<p>友人・知人が面会に来られ、お茶を出してゆっくりしてもらっている。美容師の訪問を得ている。電話の取次ぎなども対応している。花見・初詣等、職員が同行して馴染みの場所にドライブして、人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う仲間づくりへの支援は常に配慮しています。時にトラブルも発生するので、起こらないように環境整備しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も訪問したり、連絡を密にしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の方の要望には必ずしも対応しかねることも多い（家に帰りたい等）ですが、なるべく意向に添えることができるように努めています。外食や欲しい物の購入希望等・・・	日常の会話の中から言葉や表情・所作で思いや意向を捉えている。おやつが欲しいとか、買い物だったりする。困難な場合は家族や職員と話し合い、日々の記録を参考にして対応している。欲しい衣類などをそろえるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時の情報や本人、家族との会話の中で把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しでも充実した暮らしができるように、健康状態を観察、表情や仕草からその日の暮らしぶりを把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が少しでも達成できるように、チームケアに努めています。日々認知症状の進行も見られたり、プラン通りにいかないこともあります。朝夕のミーティングで意見交換しています。	本人・家族から意向を確認して、主治医の意見を入れ介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、状況に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はよくできていますが、今後のケアに役立つような内容がもう少し増えると、もっと反映されると感じます。どのようなケアを提供したら、このような結果につながった等の・・・指導不足も感じます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行、家族との面会時の過ごしやすい場所作りなどを行っている。推進会議等で認知等による相談を受ける機会もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんとの交流支援をもう少し増やしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と訪問看護ステーション、家族との連携強化を図り支援に努めています。	利用者ごとにかかりつけ医が異なっているが、連携を取り受診の支援をしている。かかりつけ医と訪問看護ステーションとの連携があり、緊急時の対応も適切に受けられるように支援している。眼科は家族が同行し歯科は訪問診療である。受診結果は報告し、遠方の方は手紙で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問看護師の訪問や、緊急発生時に相談できる訪問診療所との協働出来るシステムがあります。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的受診時、主治医へ日常の心身状態を報告している。入退院時は医療機関のSWと連携を密にしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や、重度化した時には主治医や訪問診療所、家族と方針について納得がいくような話し合いを行っています。</p>	<p>入所時に重度化や終末期に向けたホームの方針を書面にて説明し、署名をもらっている。段階的に家族やかかりつけ医と確認しながら往診や訪問看護を入れて、支援に取り組んでいる。看取りの経験もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体会議の時など、緊急時対応について学習する機会を作っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練、その内1回は、地域の住民、消防団も参加してもらって訓練しています。</p>	<p>避難訓練は年3回実施している。1回は消防署立ち合いのもと昼を想定した避難訓練であり、1回は夜間を想定した自主訓練を地域住民と一緒にやっている。1回は災害地区の訓練であり自然災害を想定している。避難場所や避難経路の確認をしている。災害時は、個別に袋に入れてラーメン・レトルトカレー・インスタントご飯・水などを用意している。個々人の情報を入れた避難袋も用意している。市の高齢者災害避難対策課と連携している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による心理的な虐待につながらないように、朝夕のミーティング等を通して、常に学習しています。そして全員との交流を図り、尊厳を大事にしています。	人格の尊重とプライバシーには常時配慮している。マニュアルがあり、権利擁護や接遇について勉強会を行っている。入室はノックしてから・トイレ誘導時や入浴介助は声かけや羞恥心に気配りして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面は少なくなっていますが、自由に表出ができるように環境を整備していきたいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	もう少し、個々の生活が優先されるように、会話の中で気持ちを導き出したいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	スタッフで決め込むのではなく、その人らしさが出るおしゃれ支援に努めていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方の好みはだいたい把握できています。配膳や片づけは無理な部分もあるため（身体的な面で）、台拭きや床掃除に関わってもらっています。	入居時に嗜好調査を行い随時、好みを把握している。刻み食や形態を考慮している。旬の食材を多く取り入れ、米は法人で育てた自家製米である。正月料理・そば打ち・誕生会には手作りケーキ等、食事を楽しむ支援を行っている。台拭きやつわの皮むき・梅干し作り等、職員と一緒に楽しんでいる。家族会の日には、家族も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、不足がちな方への支援をおこなっています。栄養ゼリー等の摂取、トロミ剤の使用等・・・		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後必ず口腔内ケアを実施しています。就寝時は義歯消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを十分把握し、オムツの使い分けをして使用量を減らす努力をしています。	チェック表で個々の排泄パターンに合わせて声かけやトイレ誘導をしている。できるだけトイレでの排泄を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を徹底し、水分量の把握、水分量の少ない方へは、水分食事形態を工夫して予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員体制により入浴時間を変更することが時々あります。なるべく一人ひとりの方が、入浴を楽しめるように努めています。	入浴は週3回を基本に午後に支援している。希望があれば対応している。入浴拒否の利用者には、タイミングを見て柔軟に対応している。清潔保持のために清拭やシャワー浴、安眠のために足浴など、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を考慮して午睡の時間を持つなど、個々の睡眠パターンを把握し、安心安眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に個々の服薬状況の把握に努め、薬の効能や副作用についてスタッフ間で申し送りを徹底しています。主治医、訪問看護師との連絡網も活用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>もう少し楽しみごとが増やせるといいと思います。残存機能の引き出しに努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、ホーム周囲の散策や外での談笑の時間を持っています。遠方へドライブを兼ねて、公園等へ出かける機会もあります。しかし、近年は年齢、体力的にも無理になられた方も多く、全員参加は難しい状況もあります。</p>	<p>日常的に天気の良い日はホームの庭や周辺の散歩に出かけて外気浴を楽しんでいる。体調をみて、できるだけ遠方に出かけ、車いすの利用者も外出支援している。初詣で・花見・ミカンやブドウ狩り・バラ公園等に出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>7名の方は、ホームでお小遣いを管理し、希望時に渡しています。買い物代行することがほとんどです。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望により、電話の取次ぎをしており、1名は携帯電話を自由に使用しています。（実際は電話の声は聞こえにくいとの声があります）手紙への支援はない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、居室には戸惑いがないように記名をして、混乱を防止しています。また、照明の調節や空気清浄器、消臭剤等を使用して不快臭がないように支援しています。また壁等には、季節感のある掲示物等を展示しています。	共用空間は広く窓からの採光が柔らかい。高隈山系の眺望がすばらしく快適な空間である。温度・湿度に配慮され、空気清浄器が置かれている。2ユニットが一つにつながっていて見通しが良く、キッチン是对面式になっていて調理の風景がみえる。畳のコーナーもある。壁には季節感のある作品を飾り、ソファも置かれ、居心地の良い工夫されたホールである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由時間には、和室があり気心の合った利用者が団欒できるスペースがあります。また、自室でも自由に過ごしていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を持参されている方もありますが、それぞれの事情もあり、持参されていない方もあります。そのような方には、スタッフで支援しています。	エアコンやベッド・椅子・クローゼットが設置してある。家から持ち込まれた衣装ケースや時計・家族写真・暦等がかけあり、日常用具などを身近に置き個性のある部屋づくりで居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の窓から自然が実感できるように、季節感のある草花や栗やミカンの木を育てています。秋には稲の実った風景も楽しめます。また、建物内部は段差もなく、安全に移動できます。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 日常用具などを
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない